

みかん

生理落果期の管理



果樹林産センター
小杉 真啓

温州みかんは生理落果期を迎えます。この時期の樹体の栄養状態や天候が、今後の着果や果実生育、品質に影響するので、適切な肥培管理と病害虫防除が重要です。生理落果は、幼果と新梢の栄養分の奪い合いによって引き起こされます。早く新梢を緑化させることで生理落果の抑制に繋がります。

着果管理

《着果の多い樹》

翌年の着花確保を目的に、生理落果終期より早期摘果に取り組みましょう。大玉になりやすい品種は、生理落果の状況を見て「樹冠上部摘果」や「枝別全摘果」を行い、樹への負担を軽減させましょう。

《着果の少ない樹》

品質向上効果の高い後期摘果を主体とし、新梢の芽かきと摘芯を行います。被さり

枝を除去し、果実に光を当てて着果率の向上に取り組みましょう。

《葉面散布》

着果の多い樹は樹勢維持と回復、着果の少ない樹は早期の緑化により生理落果軽減を目的に、尿素500倍を5〜7日置きに3回程度散布しましょう。

夏肥

夏肥は施肥の基本になります。吸収効率が高くなる初夏に合わせ、早生温州は5月下旬までに、青島温州は6月上旬までに施肥してください。夏肥の施肥が遅れ、9月以降に遅効きすると、浮皮の原因や着色の遅れに繋がります。

・青島温州	みかん化成1号	60 kg / 10 a
・早生温州	ダブルクイック668	40 kg / 10 a

病害虫防除

気温の上昇や雨量の増加とともに病害虫の発生も増えてきます。園地の状況を確認し、効果的な防除を行ってください。農薬散布時には、他作物への飛散や適正使用基準に注意しましょう。

6月上旬

- ・黒点病 エムダイファー水和剤 600倍 (6日〜2回)
- ・チャノキイロアザミウマ・カイガラムシ類 アクタラ顆粒水溶液 2000倍 (14日〜3回)
- ・黒点病防除後、30日を経過するか累積降雨量が250mmになった時点で、薬剤の効果が弱まります。再度防除をしてください。また、前年ミカンサビダニの発生が見られた園地では、6月下旬にサンマイト水和剤 2000倍 (3日〜2回) を散布しましょう。